



かがわ県産広葉樹と檜の物語

第一話





はじめに

春が来た。
森の木々は、一斉に新しい芽を吹き出して、
まるで笑っているように見える。
森の中にいると、
懐かしくて、安らかな気持ちになるのは、
昔から焚き火で暖をとったり、
ご飯を炊いたり、家を建てたり、
人が木と一緒に生きてきたからなのかもしれない。
身近な森からの恵みを、
もっと生活の中で使えないだろうか。

Story I

どんぐりの木を暮らしの中へ

香川県の半分は森林で、その半分以上が広葉樹の森。
地中深く根を張り巡らせて、山が崩れるのを防ぐとともに、
貴重な水源の森となって、
私たちの生活を支えている。



「ナラ枯れ」の広がった森(7月)。
紅葉したように突然どんぐりの木が枯れる。

そんな広葉樹の森に「ナラ枯れ」という木の病気が広がりはじめている。
被害を受けるのは、コナラやクヌギ、ウバメガシなど、どんぐりの木の仲間。
大きくなった木ほど枯れやすく、完全に防ぐことは難しい。



萌芽更新の様子

それでも、私たちにも何かお手伝いができるはず。
それは大きな木が枯れる前に伐採して、
森を若返らせてあげること。
広葉樹は切り株から若い芽が出て、再生することができるから。



そのためには、伐採した木を活用することが大切だ。
環境に優しいのは、化石燃料の代わりに薪として使うこと。
近くで生まれた薪を使うことで、
遠くから運んで来るよりも、エネルギーを節約できる。



どんぐりの木の器(コナラ)

もう一つの方法は、家具や器にして生活の中で使うこと。
木は加工が簡単で、
金属やプラスチックに比べてエネルギーをかけないでつくることができる。
漆をしっかりと塗れば、一生使える宝物になる。

Story II

しっかりと育った檜を使う

森林面積が少ない香川県。

しかし、山の方に行けば、
1万5千ヘクタール以上の檜や杉の林がある。



ヒノキの人工林(高松市塩江町)

香川県で育った檜は、折れにくくて、強い材が多いと言われている。
それは、雨が少ないことに加え、
夏の厳しい暑さに鍛えられて育つからかもしれない。



県「認証ヒノキ材」による施工例

最近、香川県内の山から生まれた檜や杉が、
家に使われはじめた。
毎日、木の柔らかい手触りと香りに包まれるという幸せ。



檜は、何にでも使える万能の材料と言われている。
材質がしっかりしているから、年輪が詰まっているから、
良い材を選ぶと、こんな素敵なグラスもつくることできる。



厳しい環境の中で、しっかりと育った「かがわ県産檜」。
使うことで、間伐などの山の手入れがどんどん進み、
将来の世代に、美しい森を残すことができるような、
そんな仕組みをつくるのが大切だ。

薪もいろいろ 燃え方いろいろ

薪と一口に言っても、木の種類ごとに燃え方が違う。
最初に燃えやすい小枝などからはじめて、
しっかり「おき火」をつくり、次に燃えやすい木を入れて、
最後に火の力が強くて、火持ちが良い木を燃やすのがコツ。



コナラ (小櫛)

火持ちが良く、煙も少ない落葉広葉樹。火は力強く、静かに燃える。
材はクセが強く、小割にしようとする骨が折れる。
板で使うと綺麗な木目が出る時もある。



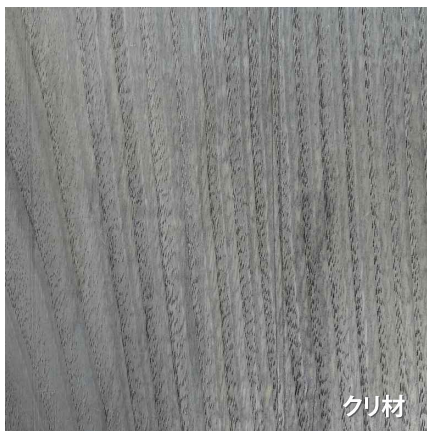
クヌギ (櫟)

コナラ同様、火持ちが良く、煙も少ない落葉広葉樹。
パチパチパチと弾ける音を出しながら力強く燃える。
材は重くて頑丈。同じ仲間アベマキという木もあるが、
樹皮がクヌギよりも厚いのが特徴。どちらも良い薪になる。



ヤマザクラ (山桜)

クヌギやコナラほどではないが、火持ちも火の力も中くらいの落葉広葉樹。
燃やすと桜独特の良い香りが期待できる。
のんびりと一人で焚き火を楽しむ人にお勧めの薪である。



クリ材

クリ (栗)

家具や漆器の材料として使われる落葉広葉樹。

火力も火持ちもコナラほどではないが、
不規則に爆ぜる音が音楽的で心地よいと言う人もいる。

※ クリなどの道管(水の通り道)が大きな木は、燃やすと大きく爆ぜる場合があるので注意すること(よく乾かしてから燃やすこと)。



ヒノキの人工林

ヒノキ (檜)

木の中に精油を含んでいて、良い香りがする。火も付きやすく、
最初の焚き付けにはもってこいの木だが、火持ちは良くない。
割れやすいので鉋や斧で小さく割ることができる。



松葉とマツボックリ

マツ (松)

昔、瀬戸内の薪と言えば、マツが一般的だった。

火力はヒノキよりも強く、よく燃える。

松葉とマツボックリも最初の焚き付けの材料として重宝されている。
材は強靱、かつては家の梁や桁として使われた。

- ※ 焚き火は許可された場所で、マナーをしっかり守って行いましょう。
- ※ 薪は乾かしてから使いましょう。
- ※ 樹種ごとの記載は、実際に県内産の薪を燃やした場合の一般的な特徴です。
材の密度や乾燥具合で、同じ樹種でも燃え方は異なることがあります。
- ※ 火持ちは、どの樹種も同程度の大きさ、表面積で比べた場合を前提にしています。
- ※ 薪ストーブは取扱説明書をよく読んで、使う薪を選びましょう。

■ 写真提供・作成協力

横山 昌太郎

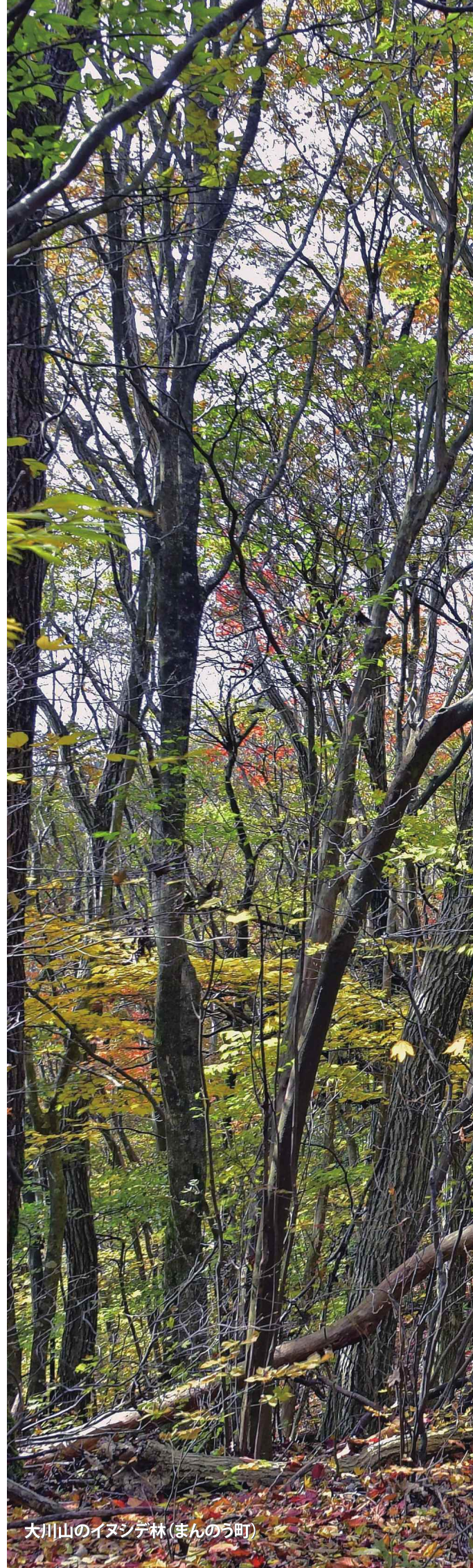
松原 雅裕

松本 和明

かがわ県産広葉樹と檜の物語 第一話

令和4年3月

編集・発行 香川県環境森林部みどり整備課



大川山のイヌンデ林(まんのう町)